

【様式 2】

学校関係者評価書

学校名 佐賀県立牛津高等学校

1 学校関係者評価実施状況

- (1) 学校関係者評価実施日 令和3年3月1日(月)
- (2) 資料(評価の参考とした資料)
学校評議員会資料(第1回～第3回)／学校説明会参観(11月8日(日))
- (3) 評価者: 本校学校評議員3名

2 評価

(1) 学校運営について

① 目標の妥当性及び達成状況

- ・前年度の成果・課題をもとに目標設定がされ、目標は概ね達成されている。
- ・組織的な目標設定と取組みにより教職員の働き方改革が進められ、時間外勤務は前年度比15%減としている。定時退勤日、学校閉庁日、部活動の休養日など設け、組織的に目標達成に取り組んだ結果といえる。

② 学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・取組状況としては、事業の効率化については適切にされているようであるが、時間管理については、目指すべきは生徒と向き合うための時間の確保に限らず、過度に長時間労働にならないような視点の設定も必要である。
- ・自己評価は概ね妥当と思われるが、本年度の達成度が良い評価であっても次年度以降の改善が疎かにならないようにしてほしい。

③ 改善方策の適切さ

- ・学校組織の現状の体制では適切である。教職員の業務は慢性的に多い。
- ・部活動の休養日の設定など組織的に目を向け、指導されている点は改善に向かう大きな一歩だと思う。今後、外部コーチ増員の検討やスポーツ推進指定競技の活動に偏りが無いようすすめてほしい。
- ・資料の配付で足りるところについて説明に時間を掛けたりしていないか等、システム以外の部分についての配慮が必要。

(2) 教育活動について

① 目標の妥当性及び達成状況

- ・目標は妥当と思われる。達成については生徒のアンケート結果と教職員の認識に乖離が見られる部分は再評価が必要。
- ・日頃よりスペシャリストの育成を図る為、心構えや知識・技術の習得等生徒・先生方共に目標達成ができています。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・取組については十分努力されている。評価については、妥当性については判断が難しいが、生徒や保護者へのアンケートを参考にした見直しは必要。
- ・「心の教育」において、いじめの早期発見、早期対応体制が適切に取られている。被害者と加害者の双方へのケアも丁寧に行われている。
- ・今年はコロナ禍でオンライン授業等、新たな取り組みもあり準備も大変だったと思う。IT 社会へ変わりゆく中、柔軟に対応して欲しい。

④ 改善方策の適切さ

- ・進路指導については具体性がある分、分かりやすいが、志を高める教育に関しては、抽象的が分かりにくい。

3 その他学校に対する意見や提言

- ・HPでの情報提供が主たるものであるが、HPだと興味ある者しか閲覧しない点を考慮し、幅広い情報発信を検討してほしい。
- ・文化祭や服飾デザイン科のファッションショーといった牛津高等学校の特色ある多くのコンテンツを動画配信等の方法により、情報発信を行い、地域の方々や中学生、多くの保護者に、生徒の頑張りを見てほしい。次年度の開催と一層の充実を期待している。
- ・コロナ禍において、学校行事や部活動の対外試合の削減、また友達との交流など、学校や家庭での生活環境が変わり、将来への不安や SNS でのトラブル等、子ども達に少なからず心に変化が生じていると思われる。保護者と連携をとり、何事も相談しやすい環境づくりをお願いしたい。
- ・LGBT 当事者への配慮は社会的にも少しずつ進んでいる。心を学ぶ場を提供するとともに、すべての生徒が自分らしく安心して学校生活を送れるよう、課題がないかしっかり検討して改善して欲しい。女子生徒の制服へのスラックス導入については、令和5年度の創立60周年に向け検討中とのことだが、実現してほしい。
- ・生徒さん一人一人をみた教育、教育目標実現に向けた取り組みを教職員全員でなされている。
- ・子ども達が安心・安全な学校生活を送る為、日々ご尽力いただきありがたい。
- ・新聞への広報活動もされている。また、ホームページによる教育活動の取組の発信が日々更新されており、牛津高校の生徒さんの活動の様子がよくわかる。
- ・今年度は、家庭クラブ活動において全国大会で文部科学大臣賞受賞、おめでとうございます。地域と連携し、高校生のパワーを感じました。指導に当たられた先生方のご尽力に感謝申し上げます。